

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



祝! 300号!

2019

2

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 1月例句会	17
十和田たてがみ川柳会 12月句会報	25
■作品鑑賞■	
—奈良一艘がとことん深読む— 「深艘心理」 奈良一艘	24
■連載エッセイ■	
リレーエッセイ「途中下車」 ひとは	16
Infomation	28～

カンテラ

Season:3

むざし

おかじょうき川柳社

平成最後の年が始まった。

と思つたらあつという間にもう二月。次の元号は何になるんだろう。

4月1日に新元号が発表されると早速川柳のネタに使われるんでしょうね…(笑)

それでは、カンテラに火を灯しましょう。

A群

幸せな人は不幸だと叫ぶ	城後朱美
耐えて来た胸に数多の防御創	高橋星湖
青空と戦っている介護うつ	土田雅子
寝そべって視界せうんぶ空にする	吉田吹喜

そうだったそうだったねと剥くみかん

米山明日歌

歩きたび俺のどこかが落ちていく

石橋芳山

捨て時をビニール傘が聞いてくる

熊谷冬鼓

割れたまま家へ帰っていいですか？

斎藤泰子

知らん振りされて一日凍る水

辻井洋子

渋谷新宿ポインセチアして歩く

岩根彰子

岩根彰子さん、渋谷や新宿へはよく行くんですか？「ポインセチア」は、クリスマス頃の頃に出回る苞(ほう)が真っ赤でやたらに目立つ植物。あれも「花」って言えばいいのかな…(汗)で、地元の京都にいれば目立たないようにしている彰子さんだけど、渋谷や新宿ではまるでポインセチアのような派手な衣装で闊歩してるんだ、きつと…。「ポインセチアして」が効いてますね。

B群

キャッチャーが風を孕んで消えました	ひらく
静けさに埋もれるように雪曜日	まみどり
白骨化した思い出首にぶらさがる	向山タエ子

煮卵がぶり駆け込み寺を探す冬

まきこ

脱皮しようとブルーノートにもぐりこむ

きざぎざ彼句吾

ひっそりと霧の記憶に捕鯨船

安藤なみ

顔認証のために生首てっぺんに

松木 秀

これからは黒鍵だけで足りるのよ

ひとり静

源タレでいただく挫折という部位

守田啓子

守田啓子さん、「源タレ」って上北農産加工株式会社(十和田市)が作る「スタミナ源たれ」のことだよ。東京へお土産に持って行くひともいるって位有名になった焼き肉のたれ。あれで「挫折」をいただくのですか。「挫折」だけだと不味くて食べられないもんね。「部位」って書かれると肉って感じがする。その内「挫折料理」なんて本を出すかもね。

C群

さりげなくさりげなくすてーじよん	田久保亜蘭
食べたいものが何にもなくて赤い空	鳴海賢治
おおかみのおなかに石をつめてゆく	柳本々々

田久保亜蘭さん、平仮名で「すてーじよん」て書くもんだから「ステーション」って読み間違つたじゃないですか。「すてーじよん」は「ステージ4」、ガンの末期で、あちこちに転移している状態のことですよ？それを「さりげなくさりげなく」ってどうしたんですか？「すい臓がんステージIVから選ってきた男」という本を書いた中学校同級生がいて、出版記念会で「百歳まで生きる」と言つてたよ。で、まさか亜蘭さんがそうつてことじゃないよね…(汗)全部ひらがなにどんな思いを込めたのかな？

鳴海賢治さん、「食べたいものが何にもなくて」って、どうしたんですか。世の中の美味いものを食べ尽くしてしまつたんですか。それとも、体調がすぐれないので何を食べても美味しくないってことですか。で、「赤い空」

ですが、「赤い空」って言えば朝焼けや夕焼けを思いますが、大地震の後の空が異様に赤くなるとも言われていますねえ。もしかしたら、賢治さんの中で地震が起きてるってこと？

柳本々々さん、これってまるでグリム童話ですね。『ヤギのお母さんがオオカミの腹を割いて子ヤギを助け、石をつけて縫い合わせた。それを知らないオオカミが、目が覚めたら喉が渴いているので水を飲もうとして井戸に落ちて死ぬ』という何とも残酷な「狼と七匹の子山羊」ところで、この句の「おおかみ」って誰のことだろう…(汗)

葉閑女さん、チューバって「チューバ【tuba】金管楽器。3〜6個の変音用の弁をもち荘重な低音を出す大形の楽器。管弦楽・吹奏楽の低音部を担当。バス・チューバ。チューバ。」(広辞苑第七版)でしょ？チューバに化けて橋の下で吹奏楽の低音部をうなってたらみんなびっくりだよ！ミステリーだね。だけど、そんな「化け方」閑女さんには似合いません。

小野五郎さん、「勅使」って『ちよくし【勅使】勅旨を伝達するために派遣される特使。』で、「勅旨」は『ちよくし【勅旨】①天子の意思。詔勅の趣旨。②律令制で、天皇の命を下達する文書。公式令(くしきりょう)に規定があり、小事に用いるとされる。』(広辞苑第七版)ですよね。要するに天皇の使いだ。それをもてなすと「シモニタネギが生えてくる」ってアレアレ。品質がよく、江戸時代には高崎藩藩主から諸国の大名や天皇家にも贈られていたことから「殿様ねぎ」と呼ばれる「シモニタネギ」。勅使の相手も葱も大変だね…。

奈良一艘さん、俺「アイコス」って知らなかった。調べたら加熱式タバコのことなんだね。喉頭癌になって禁煙してからもう4年になり、タバコや喫煙具のことには疎くなっちゃった…。今や「タバコ」は「アイコス」になって、「貿易」は「戦争」になったってことだよ。そう言えば「貿易」も加熱すれば正に戦争です。(習君とトランプ君がいけないんだよ…)「↓」はどう読むのかな？いやらしいけど、ま、いっか！。

おかしょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅1月間賞

なんのためのフェルメールブルーな嗚咽

守田啓子

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

私の人生私の時間割
歯車が狂い始めてぶっ飛んだ
ボロボロの脳と体で生きている
細胞をリセットしたい今すぐに
星空にゆつくり溶けていく涙

先月号の
お気に入り

生きてきた証 ガラクタ増えていく 城後朱美
本当にガラクタばかりです。どう始末したらいいか……

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

左手の雪を肯定できませんか
リモコンのdボタン押す希林の目
側に置く二十歳の春のざらめ雪
源タレでいただく挫折という部位
どうせなら堕ちてしぶきにでもなるか

先月号の
お気に入り

老人が次々消えるのぞき穴 月波与生
その中にいつか私も……のぞかないで下さい……

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

そうだった冬至冬なか冬はじめ
さてさてと小寒の風思案げに
待ったこと待たせたことも忘れ雪
お赤飯明日降ろうと晴れようと
ここにいる根を張りつめた雪国に

先月号の
お気に入り

たどり着くと帰るがごちゃごちゃの足 柳本々々
ずっとそうして生きてきた かも

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

寝そべって視界ぜんぶ空にする
海面に空が溶け出すよりよりよりよりよ
東京から1万9千円の距離
浄化作用があるよね海も空も
目を閉じて反すうしてるYOUのこと

先月号の
お気に入り

印象はインドゾウではありません 松木秀
そ、そっなんですね。了解しました。

柳本々々【やぎもとともと・東京都目黒区】

あつたことほうむつたこと林檎剥く
おおかみのおなかに石をつめてゆく
スイミングスクールの音クリスマス
ぼつたの目 Light and Darkness and Darkness
稲光おなかをめぐりめぐる管

先月号の
お気に入り

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

夜が明ける気配とピアノ三重奏
地吹雪の向こうで浮かれだすホルン
フルートは新年会へ行きました
チューバという化け方もある橋の下
お静かにコントラバスの出番です

先月号の
お気に入り

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

子音だけ残して舌の淋しがり
余白にはパッチワークの十二月
字あまりになるので今日はいえませんが
逆さまにすればおまげがこぼれ出す
そうだったそうだったねと剥くみかん

先月号の
お気に入り

睦み合わなくちや接続詞なんだから きざらぎ彼句吾
睦みあつ。素敵な言葉ですね。なるほどと思いました。

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

手をあげたままで埴輪になりました
ひっそりと霧の記憶に捕鯨船
知らんふりして角三本の鬼がいる
人体の模様が待っている仲間
ないものねだりばかりする鶴と亀

先月号の
お気に入り

チャップリンの歩き特許かも知れぬ 夏井せいじ
面白い。

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

平行線たまに交わるから困る
真四角を包む楕円の嫌な奴
歩くたび俺のどこかが落ちていく
リスク管理進めてこんにやくでいくか
22時夜一枚を捲るとき

先月号のお気に入り
きつと誰かに必要とされている・・・皆
きさらぎ彼句吾
淋しいね、そう思いたいものです

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

一月の胸の谷間に花かつを
渋谷新宿ポインセチアして歩く
燻られた死んだふりしたぎんなんみつ
真夜中を信号匍匐前進す
チシャのフリルは何方はんに吠えてはるの

先月号のお気に入り
雨に打たれないか 雨に酔わないか
きさらぎ彼句吾
一字空けがよくひびきます。

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

捨て時をビニール傘が聞いてくる
一日中ぼんやりだった卵とじ
正座してなりきってみる三杯酢
一方で調子を合わす傘もある
隅っこで出口ばかりを気にしてる

先月号のお気に入り
一万円札が熟したので食べる 安藤なみ
お札が熟すって(笑) 吹っ切れた感じしました

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

割れたまま家へ帰っていいですか？
ガスの火が青くてここが帰る場所
災いの中から拾う青いもの
心根が見える不幸のど真ん中
もやもやと視界不良の冬の家

先月号のお気に入り
もしかして闇の方から来ましたか
小野五郎
はい・・・

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

勅使饗応シモニタネギ生えてくる
首にタオルを巻いている聖地巡礼
不要不急の元気は消しましょう
メニューの末尾に卵かけご飯
ダイヤの乱れホルモンの乱れです

先月号のお気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

ティーカップ前にひと時のモナリザ
タクシー降りてふわりと花になる
脱皮しようとブルーノートにもぐりこむ
自分を抱きしめてやりたくて粥する
指切りなんてなるとずっと金魚鉢

先月号のお気に入り
枯紫陽花こんな女になれたなら 吉田州花
私もそう思わせる枯紫陽花に会いました。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

メタボの誕生日には逮捕する
バージンロード父を演じて痴呆症
断捨離の終わる前から爪を砥ぐ
蒼鬼の耳の後ろを舐める蟬
朝ドラのまんぺい飲んでカップ麺

先月号のお気に入り
脳みその穴から写楽の笑い声 むさし
むさし先生、三冠王おめでとございます。2019年の三冠
王は誰でしょうか。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

金太郎飴になりたい大晦日
幸せな人は不幸だと叫ぶ
正直になれよなれよと雨の音
あなたです私をいじめているのは
言えなくて苦しい嘘をつきました

先月号のお気に入り
当事者になってしまった走り書き 熊谷冬鼓
走り書きを裏紙の場所に置いてしまったことがあ
り・・・

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

カセットテープB面の鳥の立つ音が
がらがらり 見て見ぬふりを引きずって
忌々しいコタツに白々しいネコと
俄雨と共犯でするレイプ
わたしを黒から消しておくんなまし

先月号のお気に入り
白バイに先導されて行く局部 小野五郎
つまり、「局部マラソン」のトップを走っているということ
とですよ。夢です。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

モノクロの明日に黒い線を引く
合掌を解いた姫始めの噂
図書館の夕日に声を盗ませる
左折してバージンロードから海へ
丸腰の一郎と見るしゃぼん玉

先月号のお気に入り
老人が次々消えるのぞき穴 月波与生
好奇心は五歳児の専売特許じゃありませんね。

月波与生【つきなみよじょう・青森県大鰐町】

やりまんの胃の位置にある脱水機
更地でのかくれんぼ家族だった人と
虐められ歌う「すいかの名産地」
聴覚を頼りにムー大陸と浮く
ルービックキューブの赤と絶滅する

先月号のお気に入り
沈黙の黒羊羹の端が好き ひとり静
卵焼きのはじが好きで端っこだけ食べた。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

誰か来て弱音吐くから受け止めて
知らん振りされて一日凍る水
吹けば飛ぶ綿毛のような心意気
風止んで闘争心が萎えてくる
言訳を入れたポストを振り返える

先月号のお気に入り
睦み合わなくちゃ接続詞なんだから きざらぎ彼句吾
本当に、そうですね。ただ、って言ってしまっことが多い私。
睦み合えるのは「てっね」の方ですよ。これって接続詞？

高橋星湖【たかはしせいこ・青森県むつ市】

朝刊を待つている不眠症
単純な笑い上戸で疎まれる
政治欄読んで肩凝り片頭痛
後戻りしてはならない靴を履く
耐えて来た胸に数多の防御創

先月号のお気に入り

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

闇市のキリンの誠は三ツ折りに
心臓の出入り口で待ち合せ
水河期故障 湧き出た一粒種
さりげなくさりげなくすてーじよん
ERから片肺の手紙くる

先月号のお気に入り
ダーウィンのぼうつとしてるとき脳 柳本々々
我々の脳とはずいぶん違つのでぼうつとしてるときにも
きつと進化し続け人類に貢献されていたんでしょう。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

球根を植える来年の意味がある
老母とまたラーメン食べて花愛でて
青空と戦っている介護うつ
苦労性でしたね母の竹箒
切り詰めていく仏壇の花と業

先月号のお気に入り
かわいそうな象みたいなことですか ひとり静
そうそう、それ！何でわかるの？

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

かぎ裂きをからげてからの白昼夢
お砂糖とスパイス君と僕みたい
角膜をあげる結婚してください
横道に惹かれる私の下半身
キャンバスに明日を描いて売りに出す

先月号のお気に入り
思い出という名のゴミのシルエット 吉田吹喜
そうだよ、みんなゴミになるんだね。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

国歌斉唱しているヘミングの行列
その先を言えばノウゼンカズラでしょ
ロヒンギヤの涎と真冬日の稲妻
タバコ↓アイコス 貿易↓戦争
生命線がブツブツと鮪の刺身

先月号の
お気に入り

オムレツか川の話かき混ぜる 岩根彰子
先ずはフウフウしてからかき混ぜましょう。うむ。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

生産性がないという川の流れ
食べたいものが何んにもなくて赤い空
背中を押してくれた風の又三郎
訳有って今宵はとろろめしとする
農学部地学部人類学部卒。

先月号の
お気に入り

白バイに先導されて行く局部 小野五郎
早熟の出生か。単純過ぎるか。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

かたまりが黒くなったら逃げなさい
お待ちくださいなわつかが消えるまで
これからは黒鍵だけで足りるのよ
夕焼けは今日のわたしの痛み止め
垂直にナイフを立てているブログ

先月号の
お気に入り

雨に打たれないか 雨に酔わないか きさらぎ彼句吾
窓に打ちつける雨を見るのは好きです。酔っているのかな。

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

なぜ星になつてしまつたのですかと
ひまわりのようだが実は金剛石
キャッチャーが風を孕んで消えました
探すなと墓にもいぬと遺言書
満月の夜海をNOBUが渡つた

先月号の
お気に入り

まぎゃい【まぎゃい・青森県青森市】

メガネ拭くわたしは私おほほのほ
煮卵がぶり駆け込み寺を探す冬
答えなら金魚のひれが示してる
すっぱりと私を切つた空の青
繰り言は終わり宇宙の隅にいる

先月号の
お気に入り

立ち食いのそば屋に僕の椅子がある 三浦蒼鬼
エピソードを知ってるだけに面白すぎ・

松木 秀【まつきしゅう・北海道登別市】

いやらしい生放送という言葉
キログラム定義変更 痩せたはず
顔認証のために生首でっぺんに
十一月「いい何とかの日」ばかりだ
悪口がハズキルーペで倍大きい

先月号の
お気に入り

ゴキブリのいない街には愛はない 田久保亜蘭
北海道の大部分には愛は無いのでしょうか…。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

静けさに埋もれるように雪曜日
言い放つ言葉のかけら吹きだまる
凍てついた心をとかすヘッドフォン
やり直しできるだろうか雪一面
粉雪の行方を追って開ける窓

先月号の
お気に入り

向山タエ子【むこうやまたえこ・青森県青森市】

白骨化した思い出首にぶらさがる
悪いのは全部ワタシと葱坊主
スミ烏賊が蛸に恋する童話です
黄泉の母こそ道先案内人
焼野原から芽吹く意地悪お婆さん

先月号の
お気に入り

海までの一本道のところてん ひらく
我が家の冷蔵庫には常に入っているところてん 海まで
つながっているような気がします。

むさし(むさし・青森県蓬田村)

俺のこと燃料デブリと言っただろ
前立腺の「立」のあたりのアイスバーン
葬列が平方根を出て来ない
股関節と話し込んでる寒気団
地吹雪に向かって口を開けている

「無人駅」は会員の自由な発表の場です。
新作5句をお送りください。
また、お手元の最新号からお気に入りの句と
簡単なコメントもお寄せください。

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時～14時半

【講師】おかじょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

□ 2/12(火)「毒」 □ 2/26(火)「旅」 □ 3/12(火)「噂」 □ 3/26(火)「嘘」

□ 4/9(火)「二人」 □ 4/23(火)「刺す」 □ 5/14(火)「それから」

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3
むさし宛 / TEL.0174-27-2008 / E-mail: hmusashi@r66.7-dj.com

参加者募集 — 「読む会(仮)」

滋野さち

月1回の「読む会」が99回目を数えた。どこの大会句
会でも、抜いた抜かれたで終わり、なぜこの句を選んだ
のか、どこが優れているのかなど、話されることがない
のが不満だったから、句をどう読むかという勉強会が待
ち遠しかった。そのころ合評会をやっていた雪灯も中断
していたし、勉強会をやっている柳社がなかった。ペテ
ランの故・角田古錐さんを中心に、その頃はお元気だっ
た坂本トシさんも参加して、会が始まった。今参加して
いるのは、事務局的な仕事をこなして、鋭い分析をして
くれる冬鼓さん。県外へも活躍の場を広げている啓子さ
ん。飛躍する発想に優れた五郎さん。まっすぐな句をまっ
すぐに書く隆志さん。進境著しいこあきさん。理屈っぽ
い句で足踏みしているさちが、ほぼ毎回の参加者である。
しばらくお休みしている玉夫さんが、雪が消えたらまた
顔を出してくれるのではと願っている。このごろは、吉
見恵子さん・福田文音さんも参加して、にぎやかに話し
合っている。

新しい試みとして98回は、映画「日々是好日」を事前に
観て、当日句を提出する形を取った。自由な時間にそれぞ
れが観に行くという形は、吟行としては珍しいと思う。

湯が滾る会えるときには会わなくちゃ

こあき

伏線を張って流れる滝の音

こあき

こあきさんが最高点と次点に選ばれた。見たままを書
くしかできない。飛躍できないともらす彼女だが、それ
が効を奏している。

床の間に生ける五十の時の首

五郎

思いは解るが生首を連想して点を入れられなかったと
いう意見で4点だった。

今後も吟行句会を続けることにし、「読む会」の名前も
変えることにしている。

毎月第三水曜日午後二時半から、アウガに集まってい
ます。楽しく川柳を語る場です。あなたもおしゃべりに
来ませんか？

あれは平成三年の二月、自動車運転免許証を取得して、これから楽しいマイカーライフと思っていた矢先に、交通事故に遭ったのです。

それは自宅のすぐ近くを歩いていた時の事。隣の家の人が道路に飛び出し、それを避けようとした車がハンドル操作を誤って、私を後ろから撥ねたのでした。その時の記憶は断片的で、気がついた時は病院の救急処置室で名前を呼ばれていました。事故後、警察の方から聞いた話ですが、撥ねられた直後にボンネットに乗り上げて、弾みでフロントガラスに頭をぶつけたとの事でした。また車が止まるまでボンネットに乗っていたお陰で、奇跡的に全身打撲とむち打ち症だけで済んだのだそうです。入院は一ヶ月でしたけど暫くは目眩が残り車への恐怖心が長く続き、そのままペーパードライバーになってしまったのでした。

あれから二十数年たち、昨年夫の転職で、買い物など当てにしていたのが、あまり当てに出なくなつたのです。そこで一念発起、ペーパードライバーを返上するために、自動車学校でセーフティドライバー講習を受ける事にしたのです。

決定権を 主張する

リレーエッセイ 途中下車 乗客94.ひとは

「二度目の若葉マーク」

恐怖感と、どこへでも自由に行けるワクワク感が同居する不思議な感覚で講習が始まりました。

三時間一セットで、最初の一時間目はエンジンのかけ方やウインカーの出し方から教わり、次に構内のコースを右回りと左回りを繰り返して、一気に二十数年前に記憶と体感が巻き戻されました。二時間目はいきなり街中を走行し、緊張感もマックスになり、走り終わって教習車から降りたら足はガクガク腰はフラフラで、このまま倒れてしまうのかと思う程でしたけど、なんとか三時間目も終わり無事に講習を終了しました。

その頃には、恐怖心も薄れて、これからは行きたい所に行ける楽しみが徐々に湧いてきているのを感じていました。教官からは自分の間若葉マークを付けてくださいと言われていたので、初心に還るつもりで（実際に初心者だし）二度目の若葉マークを車に付けています。

今は安全運転を心掛けながら、少しずつ出掛ける距離を伸ばしていますが、若葉マークの私を見かけたら、なるべく近付かないで、どうか多目に見てやってくださいね。

1月5日(土) 午後1時～ アウガ5F 小会議室

▼出席者(15名)

熊谷冬鼓・まきこ・渡邊こあき・吉田吹喜・笹田隆志・土田雅子・須藤しんのすけ・守田啓子・葉閑女・小野五郎・夏草ふぶぎ・野沢省悟・むさし・奈良一艘・北野岸柳

▼投句者(11名)

米山明日歌・岩根彰子・坂本清乃・村上あつこ・きさらぎ彼句吾・鳴海賢治・城後朱美・月波与生・まみどり・田久保亜蘭・笹田かなえ

おかじょうぎ川柳社

1月例会句会

席題『新』

青森県青森市 まきこ選

【佳作】

正月が何だつてんだ臍のゴマ 奈良一艘
 ねえ新しいドラマ始めましようよ 吉田吹喜
 泥の中新種の蓮が咲きました 渡邊こあき
 トランプの股に新年ぶら下がる 野沢省悟
 生まれ変わっても焼き芋だけは離せない 笹田隆志
 新しい活断層がある背中 むさし
 マイナス二度おだやかな新年でした 吉田吹喜
 ひと回り大きな器で去年今年 熊谷冬鼓
 新旧をどこで分けるのか 風 小野五郎

前髪は切った明日は厄被い
 新年の袱紗捌きが様になる

初春を愛でるオトコの鼻に蠅

新しい絵に描くバラの崩れかた

新人選ばかりで生きてきたような

新しいブーツのクモの巣を払う

【秀逸】

システムを更新してもおバアさん
 ありがとう今年桜が見れそうだ
 革新的新老人という微熱

【特選】

忘れるっていいでしょ いつも新鮮

* 忘れるってプラス思考だったんだ。おみそれしました。

須藤しんのすけ
 渡邊こあき

奈良一艘

奈良一艘

北野岸柳

夏草ふぶき

むさし

小野五郎

むさし

吉田吹喜

席題『新』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

しんしんとしんしんと熱愛中 須藤しんのすけ
 新しい絵に描くバラの崩れかた 奈良一艘
 正月が何だつてんだ臍のゴマ 奈良一艘
 僕だけの命だ今日を生きている 北野岸柳
 忘れるっていいでしょ いつも新鮮 吉田吹喜
 新しい朝だよそつと呼んでみる 葉 閑女
 留守電の亡友の伝言消す陸月 土田雅子
 緞帳が上がるジキルになる前に 野沢省悟
 次の世はゴジラになるぞ真四角A まきこ

はつはるの日差しを編んでいる蛹

システムを更新してもおバアさん

マイナス二度おだやかな新年でした

前髪は切った明日は厄被い

泥の中新種の蓮が咲きました

革新的新老人という微熱

【秀逸】

元日にじゃぶじゃぶ洗う化けの皮
 何もかも捨てる水平線傾けて
 年一回わたしはあみだくじになる

【特選】

新しい活断層がある背中

* 年々活断層が増えていく実感に共感。

守田啓子

むさし

吉田吹喜

須藤しんのすけ

渡邊こあき

むさし

まきこ

守田啓子

野沢省悟

むさし

宿題『留』

青森県青森市

土田 雅子選

留め金を外せばあふれ出す叫び
思い出をこぼさぬように片栗粉
一日一善留学生のいるスタバ
付度すると蒸留水になれますか
裏起毛な人には特に留意する
遺言の下書きピンで留めておく

むさし
まみどり
笹田隆志
守田啓子
守田啓子
まきこ

【佳作】

留吉は財布落して帰れない
留め金を外すと日本海あふれ
ブローチの留め金にする海の声
太陽とポジティブになる留置場
備忘録をすり替えおんな騙し切る
戦争の留め金を外すのは誰
局留めで届く請求書のうふふ
留守番を任されてからはしやぎ過ぎ
留守所虹が出るまで雨宿り
留守電の向こうは月の裏らしい
留守電の遺言を取り消す電話
ラムネ菓子一時停止を強く押す
留守電でオレオレ詐欺を待ち伏せる

小野五郎
月波与生
米山明日歌
田久保亜蘭
坂本清乃
須藤しんのすけ
村上あつこ
きさらぎ彼句吾
まみどり
村上あつこ
むさし
村上あつこ
岩根彰子
熊谷冬鼓

【五客】

書留で届く裏切り者の首
書き留めているのは穴の暗さです
引き留めておいてあつさり手を離す
留守電に入れる明日を開ける音
留め金を逸れてゴリラに逢いにゆく

月波与生
米山明日歌
城後朱美
須藤しんのすけ
岩根彰子
夏草ふぶぎ
岩根彰子

【地位】

ユーミンを枕カバーに潜ませる
肉球に留め置く僕の優柔不断

岩根彰子

【天位】

勾留延長もうバナナには戻れない

まきこ

* たかがバナナされどバナナ。

宿題『カバー』

青森県弘前市

奈良 一艘選

裏返す度に限界数えてる
ギプスして星のタトウを休ませる
どこそこもカバー出来ないほど桜
真冬日の父のおむつの温かさ
あじさいが本音言うまでカバーする
天皇を半分隠す雪の白

熊谷冬鼓
むさし
米山明日歌
月波与生
田久保亜蘭
須藤しんのすけ

【五客】

ブックカバー外す性徴期の終わり
老人の胸の痛みに貼る湿布
少年にブラジャーというラビリンズ
おぎなつた部分がゴクリする命
べんちゃらを被せて静静と釣書

月波与生
むさし
野沢省悟
北野岸柳
岩根彰子

【人位】

葉はずして魂の進化系

土田雅子

【地位】

勃起したパンを包んで持ち帰る

夏草ふぶぎ

【天位】

靴下の五枚履き思い切り泣く

守田啓子

【佳作】

憎しみがはみ出ぬようにラッピング
とりあえず被せておけば一安心
しずかちゃん家の風呂の蓋になりたい
口開く前から負けてる帆立貝
とぼつちりがくるからカバーなどしない
オブラートでカバーしてます罵詈雑言
カバーしたツケが二倍に返される
ヒーローの仮面外して叱られる
残り香の枕カバーはそのままで
だまされてだましてちよつとだけ生きる
ペラペラだがちゃんと守っているのだよ
モザイクの下では祭り真つ盛り
勲章だぞカバーの鼻先にサビオ
ハードカバーだった人偏女偏

まきこ
まみどり
小野五郎
渡邊こあき
城後朱美
まきこ
城後朱美
須藤しんのすけ
坂本清乃
北野岸柳
吉田吹喜
米山明日歌
吉田吹喜
きさらぎ彼句吾

宿題『自由詠』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

緑色のパプリカ俺をナメんなよ
人生はほどほどだけど生きてる
徘徊を巡回と言う認知症
抹茶塩かけたらきれいなれますか
りんご噛む少し仏の味がする
「君が代」にセロファンかけて塩ふって
おろおろと枕詞を紡ぐ夜
一番でなくてもいいいさ靴磨く
一月の金魚ひとりのスクワット
ともすれば月の裏には中華街
喝采と無縁の日にも飲むビール
あつちにもWiFiはあるきつとある
突き指をしたところ月がこぼれる
それはブリキの月でしたかぐや姫

土田雅子
北野岸柳
村上あつこ
渡邊こあき
須藤しんのすけ
奈良一艘
土田雅子
葉 閑女
まきこ
吉田吹喜
葉 閑女
守田啓子
鳴海賢治
田久保亜蘭

黄泉に着くまでドラレコに叱られる
甘ずっぱい昭和甘い平成
手鏡の中に昨日のキスがある
呆け方の角度で雪は舞い上がる
あさつても昨日の名前で舟に乗る
私から私を引くとプラス1

【五客】

釣鐘の腰のあたりをど突いてる
地吹雪の中に朱色を置いてみる
不祥事を紙おしぼりで拭いている
セリなずなさあて何から捨てようか
パチンコ玉弾く 平成はあと四カ月
朝帰り朝が黙って立っていた

【人位】

朝帰り朝が黙って立っていた

【地位】

角砂糖斜めに立てて日が暮れる

【天位】

替え心が決定権を主張する

* 替え心は次の正式な心なのです。

守田啓子
野沢省悟
夏草ふぶき
奈良一艘
笹田隆志
北野岸柳

小野五郎
葉 閑女
渡邊こあき
熊谷冬鼓
奈良一艘

きさらぎ彼句吾

夏草ふぶき

熊谷冬鼓

順位	氏名	打率
1	まきこ	0.833
2	熊谷冬鼓	0.667
2	むさし	0.667
4	須藤しんのすけ	0.556
4	守田啓子	0.556
6	土田雅子	0.500
6	奈良一艘	0.500
8	岩根彰子	0.444
8	北野岸柳	0.444
8	夏草ふぶき	0.444
8	村上あつこ	0.444
8	米山明日歌	0.444
8	月波与生	0.444
14	小野五郎	0.333
14	きさらぎ彼句吾	0.333
14	城後朱美	0.333
14	田久保亜蘭	0.333
14	葉閑女	0.333
14	まみどり	0.333
14	吉田吹喜	0.333
14	渡邊こあき	0.333
22	坂本清乃	0.222
22	野沢省悟	0.222
22	笹田隆志	0.222
25	鳴海賢治	0.111

打率

【選句率】※規定投句数は最大可能投句数の50%

順位	氏名	本数
1	夏草ふぶき	3
2	岩根彰子	1
2	きさらぎ彼句吾	1
2	熊谷冬鼓	1
2	土田雅子	1
2	まきこ	1
2	守田啓子	1

本塁打

【3点句数】

順位	氏名	打点
1	夏草ふぶき	10
2	岩根彰子	8
3	熊谷冬鼓	7
3	まきこ	7
3	守田啓子	7
6	須藤しんのすけ	6
6	月波与生	6
8	きさらぎ彼句吾	5
8	北野岸柳	5
8	土田雅子	5
8	むさし	5
8	米山明日歌	5
13	奈良一艘	4
13	葉閑女	4
13	村上あつこ	4
13	渡邊こあき	4
13	小野五郎	4
13	城後朱美	4
19	野沢省悟	3
19	まみどり	3
19	吉田吹喜	3
19	田久保亜蘭	3
23	坂本清乃	2
23	笹田隆志	2
25	鳴海賢治	1

打点

【総得点】

三冠王への道

【三冠王への道】本社句会宿題詠で、打率（抜句率）・打点（総得点）・本塁打（3点句の数）を競うもの。

深艘心理

性交日しかしMPが足りない！

Sin

(おかしょうき無人駅12月号より)

「一老人 交尾の姿勢ならできる」という定金冬二の句がある。誌面の都合上冬二の句には触れないが…。
冬二は交尾、Sinは性交という表現。
さて、では純粹に交尾と性交の違いとは何であろうか？

交尾は子孫を残すためにする行為であり精子の受け渡しがある。基本的に動物をもって使う言葉。英語で言えば mating。

性交は人間だけに使う言葉で。敢えての違いで言えば性交しても受精しない、受精しても出産しないようにする「受胎調整法」を意識して行えるかの違いのようだ。因みにどちらにも快感は伴うらしい。

MPはマジックポイント、マジックパワー、マナポイ

ントといい、主にプレイヤーキャラクターが使用する魔法や特殊能力を表す魔力を数値化したもの。ドラクエなどのゲーム用語のようだ。
長々と書いたが、つまり最も人間臭い性交というゲームをする日には魔力のポイントが自分にはまだ足りない…と、字面では読めるが、掲句はそんな表面的な事を言っているのでは無いのだろうか。
一艘の深読みとしては、人生というゲームみたいな生き様を真向するにはまだまだそのスキルを積まなければ…という自戒の句と読みたいし、性交日というどぎつい比喩の感性を信じてたい。
にしても、ピカソやブラックなどのキュビズムを観ているように感じるのは私だけだろうか。

十和田たてがみ川柳会12月句会

【時】平成30年12月22日(土)

【所】十和田労働福祉会館

【出席者】漆館ミノリ・木村奈生美・瀧尻善英・

福田芳詔・村上昌子・高田幸柳

【投句者】磯島雅男・斉藤蛙井・城後朱美

■席題『静か』

村上 昌子選

【平抜き】

冬の朝月の明りで星見えず

漆館ミノリ

古里は無縁静かな風の音

木村奈生美

耳にする木の実落つ音秋の夜

福田 芳詔

寄り添って静かに開く胸の内

木村奈生美

古戦場静かな風が吹く平和

瀧尻 善英

【秀逸】

修羅越えて悟る男の目が静か

瀧尻 善英

話しかけないで原爆展だから

瀧尻 善英

【特選】

子の巣立ち静かな部屋に抜ける風

高田 幸柳

■席題『静か』

瀧尻 善英選

【平抜き】

雪しんしんテレビの音が響くだけ

漆館ミノリ

古里は無縁静かな風の音

木村奈生美

喧騒も静かに酔えた日が恋し

村上 昌子

もの静か憧れつづけグレーヘアー

村上 昌子

人並みに静かな最期希望する

高田 幸柳

【秀逸】

子の巣立ち静かな部屋に抜ける風

高田 幸柳

明日の日を信じ静かに眠る幸

木村奈生美

【特選】

手を合わせ目を閉じたまま深呼吸

高田 幸柳

■宿題 『勝負』

高田 幸柳 選

■宿題 『ついで』

木村奈生美 選

【平抜き】

カジノ法民望まぬが国が決め
 景品が出れば本気のグー・チョコキ・パー
 負け組の涙に夕陽もらい泣き
 始まりの勝負へ今朝の顔洗う
 ジャンケンに負けて地団駄踏んでいる
 旗背負う選手国家の意地背負う
 経過良し結果悪しの勝負ごと
 ここいちばん勝負に強い玉の汗
 勝負時チラシが重い十二月

【秀逸】

これからの勝負定年後の生活(くらし)
 処世術負けるが勝ちと切り抜ける

【特選】

地吹雪の中でも行かねばならぬ事

漆館ミノリ
 磯島 雅男
 城後 朱美
 木村奈生美
 城後 朱美
 村上 昌子
 福田 芳詔
 瀧尻 善英
 磯島 雅男
 瀧尻 善英
 村上 昌子
 村上 昌子
 瀧尻 善英

■宿題 『集中』

互選

① 集中が切れて迷路の葦になる
 ① 海越えて辺野古へ集うラブソング
 ① 真つ直ぐな集中力に無駄が無い
 ① 横好きの趣味に魂奪われる
 ① 集中溜めて上げ潮待つている
 ① 血税を集めてデカイ空母買う
 ① 老眼に勝てず眉間の深い皺
 ② 思考力切れて遠くをジッと見る
 ③ 作句するペンへいつしか日が暮れる

齋藤 蛙井
 村上 昌子
 木村奈生美
 村上 昌子
 村上 昌子
 齋藤 蛙井
 村上 昌子
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 瀧尻 善英

十和田たてがみ川柳会2月句会

【時】 2月16日(土) 午前10時00分から 【所】 十和田労
 働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『セクハラ』高田幸
 柳選/『世界』木村奈生美選【互選】(二句詠)『節約』
 当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入)【席題】一題(三
 句詠・共選)／選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名
 【投句先】〒034-0049 十和田市西二二番町2-21十
 和田労働福祉会館 高田幸柳

川柳作品をお待ちしております。

■題「時事川柳」むさし選

時事川柳をひとり何句でも。郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記のうえ下記へ投句して下さい。

【投句先】メール：aomori@yomiuri.com 「よみうり文芸」時事川柳係
 ハガキ：〒030-0801 青森市新町2-2-4 新町二丁目ビル6階
 読賣新聞青森支局 「よみうり文芸」時事川柳係

【掲載】毎週火曜日／【賞】秀逸には図書カードを贈呈



川柳作品をお待ちしております。

■題「自由詠」Sin選

ハガキの表に「川柳」と明記し、ハガキ裏に作品(何句でも)、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記し、下記までお送り下さい。

【投句先】メール：tky.aomori@mbx.mainichi.co.jp 「毎日新聞・川柳」係
 ハガキ：〒030-0803 青森市安方2-8-10
 毎日新聞青森支局 「毎日新聞・川柳」係まで

【掲載】毎週金曜日掲載

【賞】月間賞、年間賞には図書カードを贈呈



しぶといと言われ続けて嫌われて
 粘られてしぶしぶまける骨董屋
 フラついていても譲らぬ社長席
 とるとつたすぎなどくだみまた生える
 老いの日々余白しぶとく面白く
 七〇過ぎ生きることがしぶといか
 販売機もう一本が当たらない
 小野田さんしぶとく生きる術教え
 作戦はひたすら敵の動き待つ
 分かっではいるがしぶといのは女
 諦めぬ意地の眼へ希望の灯

高田 幸柳
 城後 朱美
 瀧尻 善英
 福田 芳詔
 齋藤 蛙井
 漆館ミノリ
 磯島 雅男
 福田 芳詔
 高田 幸柳
 城後 朱美
 瀧尻 善英
 磯島 雅男
 磯島 雅男

おかじょうき川柳社：誌上句会

OKAJOKI ZERO LINE
0 番線

課題と選者（2句詠・共選）

題：『等』

2/28 〆切

選者

米山明日歌（静岡県）

Sin（青森県・おかじょうき川柳社）

投句方法

郵送・FAX・インターネットのいずれかからお選び下さい。

＜投句先＞

郵 送：〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 守田啓子宛

FAX：017-723-5696

ネット：http://www.okajoki.com/toku/0line.html

投句料

1,000 円（発表誌呈）※おかじょうき川柳社会員は無料です。

◆振込先：郵便振替 No.02280-8-43112 口座名 おかじょうき川柳社

◆郵送先：〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 守田啓子宛

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

おかじょうき川柳社

□ 2019.02.10 寄生木さんを語る会

【日時】平成31年2月10日（日）13時～ 【場所】青森市古川「サッポロビアレストラン910」【宿題】「寄」高瀬霜石選 「生」太田久選 「木」野沢省悟選 【賞】各題特選2句に賞品 【会費】3,500円 【参加】2月4日（月）までに寄生木さんへの「追悼句1句」と「出・欠」の有無を記入し野沢省悟まで送って下さい。 ※参加できない方は追悼句を募集しますので、野沢省悟へ送って下さい。 ※準備等のため当日の突然参加はご遠慮ください。 【連絡先】〒038-0004 青森市富田2丁目7-43 野沢省悟 電話・FAX.017-782-1447 ◎当日は、寄生木さんの思い出を、参加者の皆さまとゆっくり語り合いたいと思います。【発起人】高瀬霜石・太田久・野沢省悟

□ 2019.03.03 第17回青森県近代文学館川柳大会

【日時】平成31年3月3日（日）11時半～16時半（11時半受付開始・席題発表の予定）*事前の申し込み不要です。当日直接会場にお越しください。【会場】青森県立図書館4階集会室 〒030-0184 青森市荒川字藤戸119-7【参加料】無料（参加者には大会入選作品集進呈）【賞】各特選入選者に記念品進呈【宿題と選者】（各題二句詠・共選）投句拝辞（郵送等による事前の投句はできません）『裏』福間志津子・須田たかゆき共選/『デリケート』千葉かほる・瀧尻善英共選/『おろおろ』吉田吹喜・辻口風来坊共選/『平成』渡邊こあき・大石一粋共選【席題一題】（二句詠・共選）『

』選者は当日発表【講演】「川柳と私」講師 津田暹氏（前 川柳研究社代表）【主催】青森県近代文学館*問合せ〒030-0184 青森市荒川字藤戸119-7 電話 017-739-2575（柳誌展示・交換）皆様から寄せられた県内外の柳誌を展示します。部数に余裕があるものはご自由にお持ち帰りいただけます。また柳誌等の持ち込みも歓迎します。当日までに文学館にお持ちください。

□ 2019.05.03 第26回金木桜まつり川柳大会

【日時】平成31年5月3日（金）受付9:30・席題発表10:00・投句締切11:00【会場】芦野公園自然休養村管理センター2階 0173(52)2262 津軽鉄道芦野公園駅より徒歩3分【会費】¥4,000（昼食・懇親会・発表誌）【宿題】（各題2句詠・共選）（一部選者交渉中）『広』佐藤ぶんじ・山野茶花子『羽』福士慕情・菊池京『目』三浦蒼鬼・工藤まさひろ『強』熊谷冬鼓・太田久【席題】（2句詠・共選）『印象吟』北山まみどり・千島鉄男【岸柳杯】（1句）「もん」むさし【賞】宿・席題・北野岸柳杯共特選・準特選を懸賞【主催】金木川柳の会【共催】金木桜まつり実行委員会【後援】五所川原市・五所川原市教育委員会【連絡・問合せ先】090(7334)7297（成田我楽）

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ **2019.02.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句 (4月号分)**
 【締切】2月20日必着【掲載】4/10発行号【提出先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>

□ **2019.03.02 おかじょうき川柳社本社3月句会**
 【時】3月2日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【宿題】(各題3句詠『労』/『クイズ』/『自由詠』選者は当日決定【席題】1題3句詠・2人共選/席題の欠席投句拝辞【研究吟】自由詠1句【投句締切】句会前日必着【投句先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>

エッセイをください!

内容は自由、字数800字程度(用紙は自由・メール投稿歓迎)で締め切りは毎月15日。なお、いただいたエッセイを掲載するかないか、掲載する順序などは編集者が判断しますのであらかじめご了承ください。

送付先: 〒039-3502 青森市久栗坂浜田87-2 熊谷方
 おかじょうき川柳社 エッセイ係
toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

※この用紙を切り取るか、コピーしてお使いください。

会員雑詠「無人駅」投句用紙

柳号

住所

府 都 道
 県 道

町 区 市
 村 市

※楷書でハッキリとお書きください。

★お気に入りの一句(最新号からお好きな作品一句と、それに対する簡単なコメントをお書きください。)

コメント

【投句先】
 〒030-0861
 青森市長島4-23-4-102
 守田啓子 宛
 FAX.017-723-5696

■会費拝受（12月受付分）

田久保亜蘭・一帆・斎藤泰子（秋田県）/ひとり静（奈良県）/岩根彰子（京都府）/小林茂子（岡山県）
/土田雅子・守田啓子・まきこ・葉閑女・吉田州花・小野五郎・熊谷冬鼓・前輝・前田悠遊・
横山キミエ・中道文子・滋野さち・佐藤節子（青森市）/相馬のどか・きさらぎ彼句吾（弘前市）
/まみどり（黒石市）/鳴海賢治（つがる市）/Sin・松尾喬介（外ヶ浜町）/むさし・坂本清乃・ひ
らく（蓬田村）

■おかげょうき川柳社 会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 FAX.017-723-5696

終着駅 Sin

◆刊行から不定期発行の時期も含めて、今号で通算300号となった。各方面から、お祝いのコメントが相次いで届いていない。周知していないのだから、届くわけがない（笑）◆さて、私が「月刊おかげょうき」を編集してから22年目となる。言うても毎月発行である。それをまっ22年もよく続けてこれたなと、自分自身びっくりするくらいだ。周りの優秀なサポートがなかったら、今頃、季刊誌くらいのペースにまで落ちていたかもしれない。改めて、むさしさん、冬鼓さん、啓子さんに感謝をしたい。柳社の収支やら、会員管理、会場予約など、細かくも大事な部

分を任せられるおかげで、誌面編集やウェブ編集に集中できている。本当にありがとう。これからもご迷惑をおかけします（笑）◆とは言っても、号数をただ惰性で重ねることが目的ではないわけで。川柳の魅力を一人でも多くの人に伝えていくことが目的のひとつであり、柳誌やウェブサイトはそのツールではない。なんなら新元号になったら、また第1号から始めようかなと（笑）◆会員の皆さんあっての「月刊おかげょうき」です。皆さんで作り上げていく「月刊おかげょうき」にしていきたいと思います。なので、いろいろなコーナーへ積極的なご参加を（笑）◆Sin

